

〔創造部門〕

1. 氏名 ^{ひらいで たかし} 平出 隆（詩人、作家、造本家）
（北九州市特命大使（文化大使）、多摩美術大学名誉教授）
2. 年齢 73歳 ※R6.10.10現在
3. 住所 東京都（北九州市門司区出身）



【経歴及び選考理由】

昭和47年、一橋大学在学中に詩誌「ユリイカ」に詩及び詩論を発表してデビュー。以後、自身でプライベート・プレス（版元）を構えながら、詩と散文にまたがる広大な領域を切りひらき、大江健三郎により「詩の中から新しい散文を生み出す詩人」として海外へ紹介された。

氏はこれまでに数々の詩集や小説を執筆し、昭和59年には詩集「胡桃の戦意のために」で「芸術選奨文部大臣新人賞」を、平成5年には散文集「左手日記例言」で「読売文学賞」を、平成14年には小説「猫の客」で「木山捷平文学賞」並びにエッセイ集「ベルリンの瞬間」で「JTB紀行文学大賞」を、平成21年には英訳された詩集「胡桃の戦意のために」でアメリカの「最優秀海外図書大賞」を受賞、小説「猫の客」は25カ国語に翻訳出版され、国際的ベストセラーとなるなど、国内外で高い評価を得ている。

また、詩人・作家としてのほか、「郵便と一体化した本」を考案するなど、造本家としても活躍。平成30年にDIC川村記念美術館は「言語と美術——平出隆と美術家たち」展を開催した。自装による長篇評伝「伊良子清白」は、平成16年に「芸術選奨文部科学大臣賞」及び「造本装幀コンクール経済産業大臣賞」を受賞、ライブチ国際ブックフェアにおける「世界でもっとも美しい本」賞の候補となった。

また、平成20年の第1回から参加した「日中韓東アジア文学フォーラム」では、平成22年第2回フォーラムの北九州市での開催を提案、実行委員会副委員長として日中韓の作家の同市での交流に尽力した。

さらに、平成22年からは小中学生を対象とした「あなたにaitakute生まれてきた詩コンクール」（北九州市主催）の最終選考委員を務めるなど、次世代の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

このように氏は、詩人・作家・造本家として国内外で活躍するとともに、出身地である北九州市において後進の育成に取り組むなど、本県文化の振興に貢献している。

【主な著書】

- 「詩集旅籠屋」（昭和51年）
- 「平出隆詩集」（昭和52年）
- 「破船のゆくえ」「胡桃の戦意のために」（昭和57年）
- 「若い整骨師の肖像」（昭和59年）
- 「家の緑閃光」（昭和62年）
- 「ベースボールの詩学」「白球礼讃」（平成元年）
- 「左手日記例言」（平成5年）
- 「弔父百首」（平成12年）
- 「葉書でドナルド・エヴァンズに」「猫の客」（平成13年）
- 「ベルリンの瞬間」（平成14年）
- 「伊良子清白（月光抄・日光抄）」（平成15年）
- 「ウィリアム・ブレイクのバット」（平成16年）
- 「鳥を探しに」（平成22年）
- 「via wwalnuts叢書 1～30」（平成22年～）
- 「私のティーアガルテン行」（平成30年）
- 「ppripo」（令和3年）



自装による長篇評伝
「伊良子清白」（平成15年）
・芸術選奨文部科学大臣賞（平成16年）
・造本装幀コンクール経済産業大臣賞（平成16年）

【主な受賞歴】

- 第34回芸術選奨文部科学大臣新人賞（昭和59年）詩集「胡桃の戦意のために」
- 第45回読売文学賞（平成5年）散文集「左手日記例言」
- 北九州市民文化賞（平成6年）
- 第6回木山捷平文学賞（平成14年）小説「猫の客」
- 第11回JTB紀行文学大賞（平成14年）エッセイ集「ベルリンの瞬間」
- 第54回芸術選奨文部科学大臣賞（平成16年）評伝「伊良子清白」
- 第38回造本装幀コンクール経済産業大臣賞（平成16年）評伝「伊良子清白」
- 第42回藤村記念歷程賞（平成16年）評伝「伊良子清白」「伊良子清白全集」など
- 最優秀海外図書大賞（アメリカ）（平成21年）詩集「胡桃の戦意のために」



小説「猫の客」の翻訳出版
”The Guest Cat”（平成26年）

（参考）創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したものの